

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病(穂いもち)	-	並
	紋枯病	並	やや多
	縞葉枯病(防除情報第7号)	多	多
	トビイロウンカ	やや少	並
	コブノメイガ	並	並
	穂吸汁性カメムシ類	やや少	並
大豆	ハスモンヨトウ(防除情報第8号)	並	やや多
いちご	うどんこ病	並	並
	炭疽病(<i>G. cingulata</i>)	並	並
	ハダニ類(防除情報第9号)	やや多	やや多
アスパラガス	アザミウマ類	前年並	前年並
野菜類・ 花き類共通	ハスモンヨトウ(防除情報第8号)	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	やや多
茶	炭疽病	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	多	多
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(111筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.3%

(0.9%)、発生圃場率は9.0%(13.4%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発病株率 1.5%)

ウ 一部窒素が効いている圃場では葉いもちの進行型の病斑が見られ、発生が多いところではずりこみ症状を認めた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(111筆)の結果、発病株率は1.3%(2.3%)、発生圃場率は26.1%(24.1%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率35.0%(4.3%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

イ 薬剤散布にあたっては圃場周辺へ薬剤が飛散しないよう十分注意する。

3. 縞葉枯病

平成20年8月18日付け病害虫発生予察防除情報第7号による。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(111筆)の結果、株当たり虫数は0.01頭(0.05頭)、発生圃場率は13.5%(22.3%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.02頭(0.12頭)、寄生株率は2.0%(11.6%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、できるだけ圃場の見回りを徹底し、圃場全体の発生状況を把握して防除を行う。8月下旬の要防除水準は株当たり虫数が1頭である。

イ 株元に多く寄生するので薬剤散布にあたっては株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(111筆)の結果、食害株率は10.6%(17.6%)、発生圃場率は92.8%(82.4%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は48.0%(33.3%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(32地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は5.1頭(15.5頭)であった(表)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくいとり当たり虫数						発生地点率	
	H16	H17	H18	H19	平年	H20	平年	H20
ホソハリカメムシ	1.3	1.8	1.9	1.2	1.8	1.2	78.2	81.3
クモハリカメムシ	0.7	0.4	1.3	1.0	1.2	0.3	46.4	46.9
シラホシカメムシ	0.9	0.4	0.7	0.9	1.1	0.5	55.1	68.8
アカシジカスミカメ	5.5	7.0	16.6	6.5	11.4	3.1	64.6	68.8
計	8.4	9.6	20.6	9.6	15.5	5.1		

注) 10回すくい取りあたりの虫数の平年はH10~19年の最大・小値を除いた平均値。
発生地点率の平年はH13~19年の平均値。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草除去等の圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。
- イ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布をおこなうと効果が高い。
- ウ 近年、九州北部で発生が増加しているミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。
- エ 薬剤散布にあたっては圃場周辺への薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

平成20年8月18日付け、**病害虫発生予察防除情報第8号**による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率3.4%)。
- イ 病害虫防除員からの発生概況報告では、少～やや多と地区により発生程度に差がある。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生を認めたら治療効果のある薬剤を散布し、その後定期的に系統の異なる薬剤をローテーション散布し、予防に努める。
- イ 草勢が衰えたときや軟弱徒長株は本病が発生しやすいので、通風や日当たりを良くし、適正な肥培管理を行う。
- ウ 特に、株冷、夜冷処理するものは、冷蔵処理前の防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率0.1%(0.4%)、発生圃場率6.1%(11.1%)であった(図)。

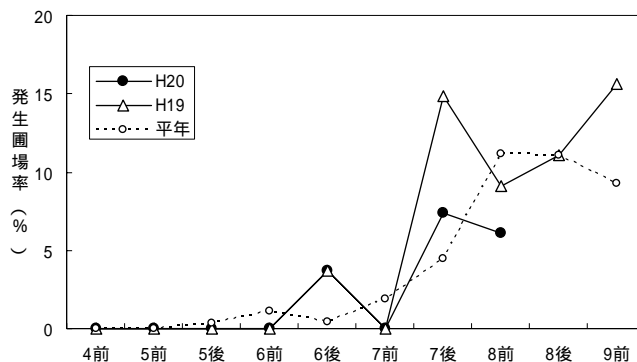


図 いちご 炭疽病 (*G.cingulata*) 発生圃場率の推移
平年: H10~19の平年値(最大・小除)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実にを行う。
- イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。除去した発病株や茎葉は、

圃場内やその周辺に放置しない
 ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に行う。

3. ハダニ類

平成20年8月18日付け病害虫発生予察防除情報第9号による。

アスパラガス

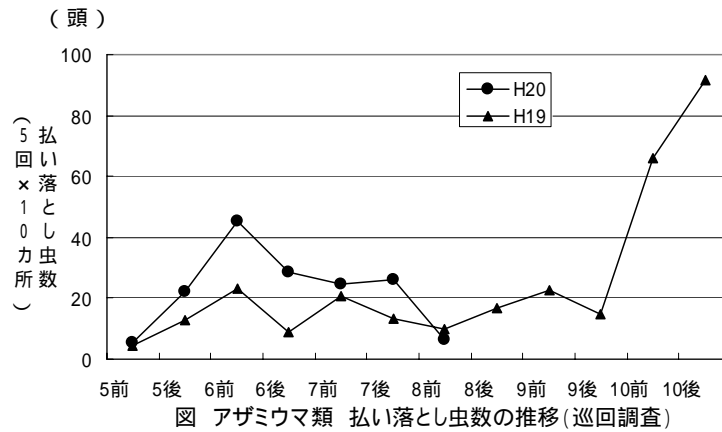
1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 前年並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は6.3頭(前年9.9頭)、発生圃場率は66.7%(前年100%)(図)。



野菜類・花き類共通

1. ハスモンヨトウ

平成20年8月18日付け病害虫発生予察防除情報第8号による。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率0.7%(0.6%)、発生圃場率は28.2%(20.9%)、発病果率0.6%(0.5%)、発生圃場率17.9%(8.8%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は5.8%(8.1%)、発生圃場率は30.8%(43.2%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は11.5%(14.4%)、発生圃場率は61.5%(60.2%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率0.8%(1.9%)、発生圃場率17.9%(25.4%)、果頂部の被害果率2.3%(0.9%)、発生圃場率20.5%(10.8%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや多く推移している(図)。

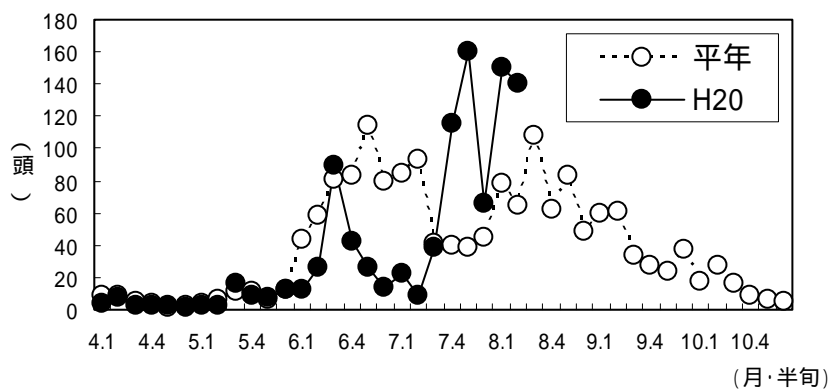


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
平年は平成15~19年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

アメダス地点	長崎	佐世保	大村	島原	口之津
第6世代	8 / 21	8 / 22	8 / 24	8 / 22	8 / 20
第7世代	9 / 7	9 / 8	9 / 11	9 / 8	9 / 6

注1: 使用する気温データには各地域のアメダスデータを利用した。

注2: 平成20年8月13日現在で予測し、8月14日以降のデータは過去3年分の平均値を利用した。

注3: 各地域のアメダスの海面からの高さは以下の通りである。山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

アメダス地点海面上の高さ

長崎 27m、佐世保 4m、大村 3m、島原 9m、口之津 10m

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率0.5%(5.5%)、発生圃場率は30.0%(64.3%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率0.4%(0.1%)、発生圃場率10.0%(5.7%)であった

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年並に推移している(図)。

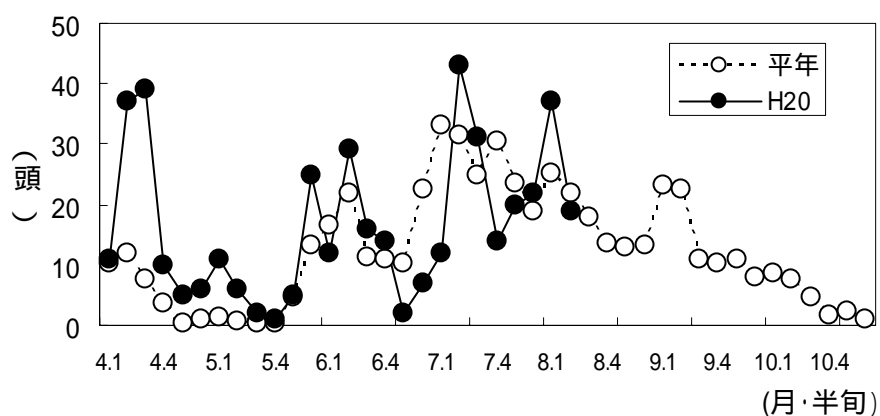


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
平年値は平成15~19年の平均

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している。

イ 6月下旬に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内14地点の平均着生程度は4.4(3.1)で平年よりやや多い。

当年世代の発生量は、ヒノキきゅう果の着生量との相関が高く、今年の果樹カメムシ類の発生量は平年よりもやや多いと予測される。

注) 着生程度の基準 多:5、やや多:4、並:3、やや少:2、少:1

ウ 7月下旬に実施したヒノキきゅう果ピーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は2.1頭(1.2頭)で平年よりもやや多い(表)。

表 ヒノキのきゅう果におけるカメムシ類の寄生状況(7月下旬) 枝当たり虫数(頭)

ヒノキ	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
10年	0.5	0.3	0.3	0.2	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	1.4
11年	0.4	0.2	0.2	0.6	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	1.5
12年	0.4	0.3	0.2	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
13年	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
14年	0.6	0.2	0.4	0.5	1.6	0.1	0.1	0.2	0.7	1.2	2.8
15年	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
16年	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
17年	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
18年	0.6	0.8	0.8	0.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	3.0
19年	0.1	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
平年	0.3	0.2	0.2	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	1.2
20年	0.5	0.3	0.2	0.5	1.7	0.3	0.1	0.0	0.0	0.4	2.1

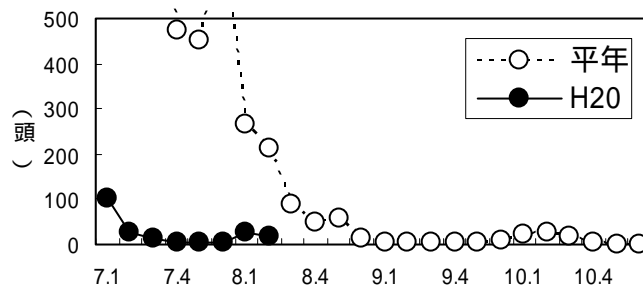


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネコル) (月・半旬)
平年は平成15～19年の平均

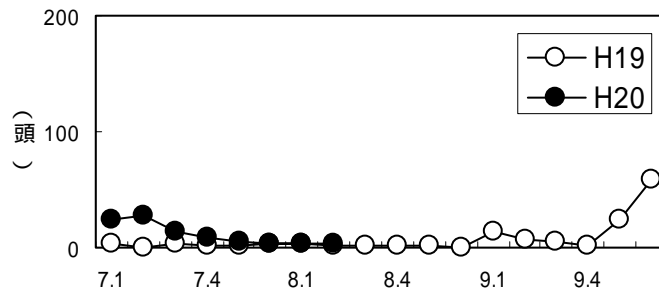


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (月・半旬)
(西彼:黄色コガネコル)

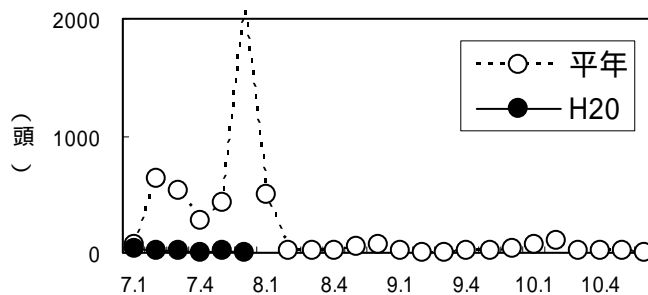


図 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(有家:黄色コガネコル) (月・半旬)
平年は平成17～19年の平均

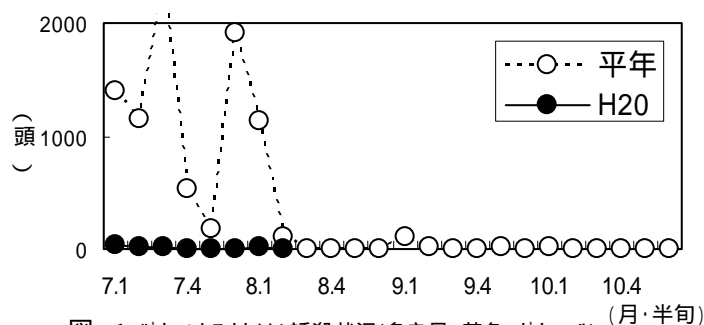


図 チャハネツヤアオカメムシ誘殺状況(多良見・黄色コガネコル) (月・半旬)
 平年は平成17～19年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 当年世代成虫の果樹園への飛来時期は、下表のとおり予測される。
- イ 飛来量や飛来時期は同一地域内でも園によって異なる場合があるので、園をこまめに見回り、早期発見・防除に努める。

表 各地域の果樹園への予測飛来日

地域名	口針鞘数	予測飛来日	地域名	口針鞘数	予測飛来日
長与町岡	2.3	9月12日	東彼杵町赤木	4.6	9月4日
時津町子々川	2.7	9月11日	佐世保市針尾	1.8	9月14日
西彼町小迎	1.3	9月16日	佐世保市宮	1.8	9月14日
西海町木場	1.3	9月16日	瑞穂町伊福	1.3	9月12日
多良見町東園	2.1	9月13日	国見町百花台	0.6	9月17日
諫早市長田	1.0	9月16日	有家町新切	3.4	9月8日
大村市今村	0.4	9月18日	北有馬町田平	0.9	9月16日

注1 7月28日、29日に各地域5カ所(1カ所20果)を調査した。
 注2 1果当たりの口針鞘数が25を超えるとカメムシはヒノキきゅう果から離脱する。
 注3 予測は福岡県農業総合試験場が作成した予測式を利用した。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.4枚(5.2枚)、発生圃場率は30.0%(66.4%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は55.0頭(12.9頭)、発生圃場率は90.0%(67.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性がつきやすいので、同系統の薬剤は連用しない。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数0.4枚(0.2枚)、発生圃場率40.0%(12.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや多かった(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

雌成虫の発生最盛期から7~10日後に薬剤散布すると効果が高い。

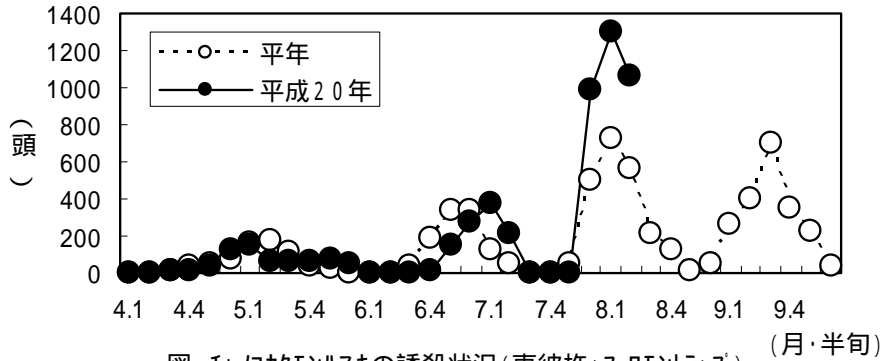


図 茶ノカモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
平年は平成15年~19年の平均値

4. 茶ノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数0.2枚(0.4枚)、発生圃場率30.0%(12.8%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並であった。(図)。

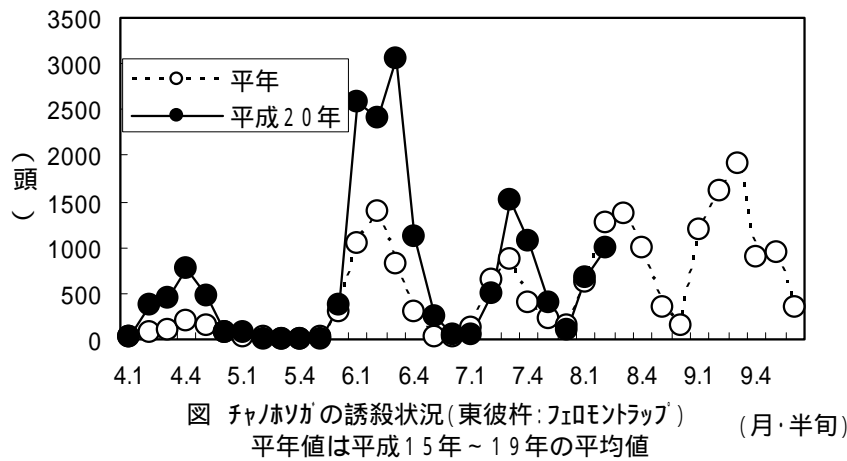


図 茶ノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
平年値は平成15年~19年の平均値

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率1.1%(0.2%)、発生圃場率30.0%(7.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性がつきやすいので、同系統の薬剤は連用しない。

6. 茶ノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.4頭(1.1頭)、発生圃場率は50.0%(38.9%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
幼虫は葉裏にすることが多いので、葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.3%(6.5%)、発生圃場率は30.0%(31.7%)であった。

【参考】

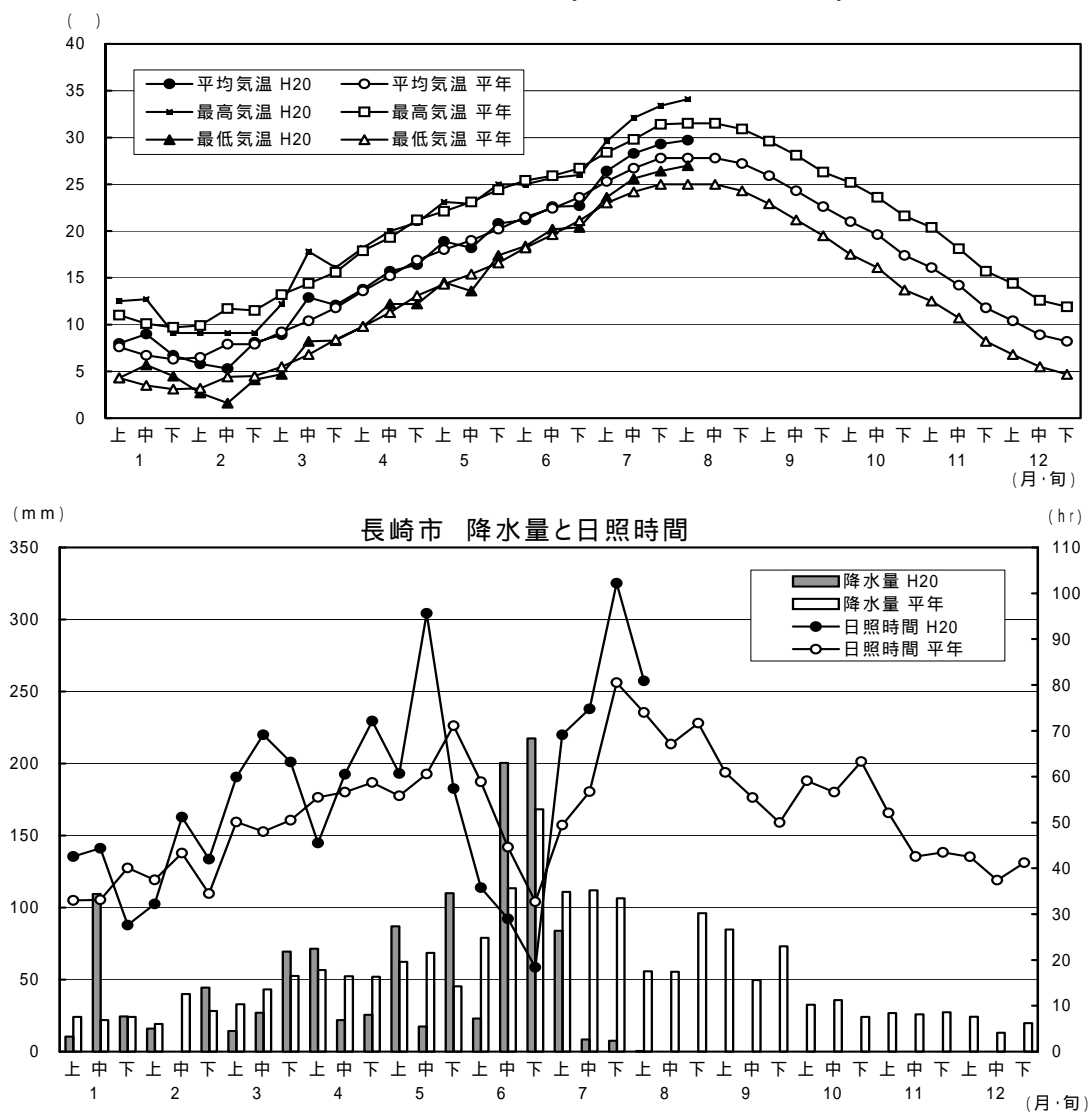
気象 (平成20年8月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成20年の気象経過 (長崎海洋气象台)



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027